

昭和十一年度

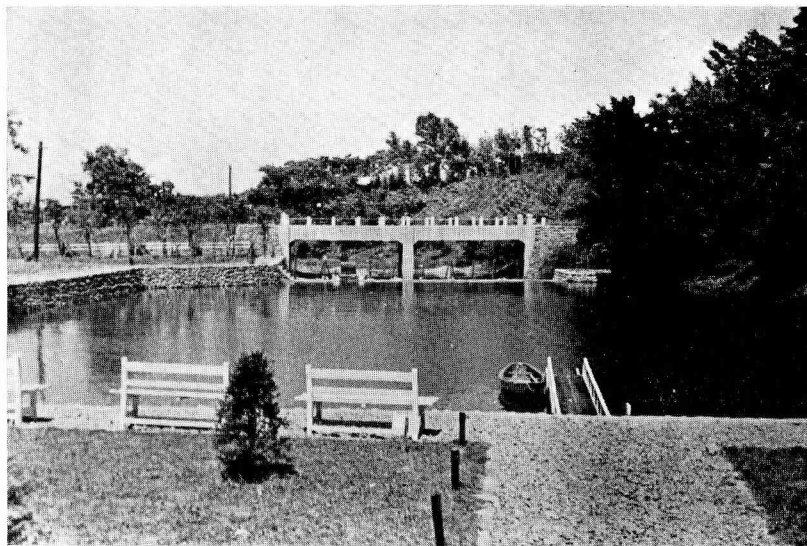
鮭鱒孵化事業報告

第三冊

北海道鮭鱒孵化場

目次

謹記	一
昭和十一年度事業計畫	五
昭和十一年度事業成績	七
鮭 孵化事業	七
親魚捕獲及採卵	七
孵化放流	一六
鱒 孵化事業	一九
親魚捕獲及採卵	一九
孵化放流	二七
姫 鱒 孵化事業	三〇
害 魚 驅除	三〇
種卵配付及事業用種卵ノ移植	三一
種 卵 配 付	三一
事業用種卵移植	三三
試驗及調査	三四
鮭卵砂利床孵化試驗	三四
止水式孵化法ニ關スル試驗	四〇
各種魚類ノ混養飼育試驗	四六
帆立肝臟利用餌料試驗	四九



附 錄
北海道鮭鱒孵化場一覽表

虹鱒養殖試驗	五
八つ目鰻人工孵化試驗	五
虹鱒稻田養殖試驗	五
稻田養鯉試驗	五
胡瓜魚池中養殖試驗	五
胡瓜魚死魚受精能力試驗	五
紅鱒捕獲採卵試驗	五
石狩河口ノ鱒調査	六
厚田川ニ於ケル稚鮎ノ溯上狀況調査	六
網走湖ノ漁業調査	六
塘路湖ニ於ケル漁業狀況調査	六
塘路湖ニ於ケル魚族蕃殖ニ及ボス洗炭廢液ノ影響調査	六
クサレ沼調査	六
河川調査	六
講習・講話・指導	六
講習・講話	六
指導	六
其他	六
移管成績	六

[illegible]

昭和十一年秋本道ニ於テ陸軍特別大演習舉行セラルルニ當リ、畏クモ 聖駕ヲ御進メサセ給ヒテ親シク御統監アラセラレタリ。而シテ其ノ前後 鳳輦ヲ各地ニ進メラレ本道ノ文化民情ヲ具ニ齎ハセラレタリ。

本場(現千歳事業場)ニ於テハ忝クモ御使御差遣卜御料品調達トノ二大光榮ヲ擔ヒタルハ誠ニ恐懼感激ニ堪ヘザルトコロニシテ、茲ニ記述シテ永ク聖恩ノ深大ヲ忍ブ料ニ供セムトス。

昭和十一年十月七日畏クモ御使トシテ岡部侍從ヲ御差遣相成リタリ。

當日午後零時御使到着。有資格者ノ伺候アリタル後場長ヨリ業務全般ニ亘リ御説明ヲ受ケサセラレ、次イデ第一孵化室前ニ裝置セル捕魚車模型ト水槽ニ放養セル千歳川水系水族、第二孵化室ニ於テ鮭鱒孵化ノ實況、第六、七號池ニ於テ虹鱒飼育狀況等ヲ詳カニ御視察アリ、記念撮影ノ後午後一時二十一分場長ノ

御案内ニテ千歳村字西越ニ在ル本場附屬西越採卵場ニ向ハセラレ、親魚捕獲及採卵ノ實況ヲ御覽ノ後再ビ記念撮影ヲナサレ、午後二時五分御歸途ニ着カセラレタリ。

明治二十一年ニ本場ノ創立セラレタル當時ハ僅カ一千万粒ヲ孵化放流スルノ設備ニ過ギザリシモ、逐年業務ノ發展ヲ見今ヤ五千万粒以上ノ規模ニ擴大サレ、然モ昭和九年度ノ如キ實ニ一億餘万粒ヲ孵化スルノ世界記録ヲ作ル盛況ニ達シ、本事業ノ効果ト重要性トヲ更メテ確認スルニ至レリ。

惟フニ此度ノ有難キ御思召モ此處ニ在ル事ト拜察シ奉リテ全道ノ本事業關係者ト共ニ感銘ヲ深メ、今後一層協力一致御奉公ノ赤誠ヲ盡ス事ヲ誓フ所以ナリ。

御料品調達

龍駕御駐輦中御料食品トシテ本場ニ於テ虹鱒、山女、ざりがにヲ調達上納スルノ光榮ニ浴シタリ。

陸軍特別大演習御統監竝地方行幸アラセラル事ニ相成ルヤ前記御料品調達方

ノ内命ニ接シタルニヨリ場員一同協力戮心其ノ準備ニ没頭シ遺憾ナカラン事ヲ期シ、左記ノ通無事滞リナク調達スルヲ得タリ。

月 日	上 納 場 所	品 名	數 量
九月二十九日	帶廣行在所	山女	七〇尾
九月三十日	札幌行在所	ざりがに	三〇〇尾
十月三日	札幌大本營	虹鱒	六五尾
十月四日	同	山ざりがに	七〇〇尾 二八〇尾
十月八日	札幌行在所	山虹女鱒	二〇〇尾 五〇尾

以上ノ種類ヲ御撰定ニ相成リシ事ニ關シテハ濫ニ忖度スベカラザルモ、思フニ山女トざりがにハ本道産淡水々族トシテ其ノ分布食味ヲ代表スルモノニシテ又虹鱒ハ移植種トシテ増殖ニ成功シタルモノナルヲ以テ、コノ光榮ニ浴セルモノトシテ深く感激セリ。之ハヤガテ本道淡水養殖事業振興ノ將來ニ輝ク希望ヲ示シタルモノニシテ今後益々斯業ノ堅實ナル發展ニ努力スベキモノト思考ス。

昭和十一年度事業計畫

鮭鱒孵化事業

昭和十一年度本場鮭鱒孵化事業計畫ハ前年度同様鮭三億粒ヨリ二億五千五百萬尾、鱒一億二千萬粒ヨリ一億八百萬尾、姫鱒二百萬粒ヨリ百八十萬尾ヲ孵化放流スル豫定ニシテ、其ノ内譯ヲ示セバ左表ノ通り。

場名		採卵數		放流數		採卵數		放流數		摘	要
本場	本場	五、〇〇〇 萬尾	四、三〇〇 萬尾	三〇	三〇	四、〇〇〇 萬尾	三〇	一八〇	一八〇	放流數ハ於テ採卵數ノ八五%ニ於テ九〇%以下同	摘
支場	支場	三〇〇	二五五	三〇	三〇	三〇	三〇	一八〇	一八〇		
事業場	事業場	三〇〇	四三〇	二五五	二五五	二五五	二五五	一八〇	一八〇		
別太別	別太別	三〇〇	四三〇	二五五	二五五	二五五	二五五	一八〇	一八〇		
朱利	朱利	三〇〇	四三〇	二五五	二五五	二五五	二五五	一八〇	一八〇		
遊樂	遊樂	一、〇〇〇	八五〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	一八〇	一八〇		
敷生	敷生	二〇〇	一七〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一八〇	一八〇		
勇拂	勇拂	一〇〇	八五	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一八〇	一八〇		
支湖	支湖	一〇〇	八五	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一八〇	一八〇		
新冠	新冠	一、〇〇〇	八五〇	二七〇	二七〇	二七〇	二七〇	一八〇	一八〇		
染退	染退	二〇〇	一七〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一八〇	一八〇		
三石	三石	二〇〇	一七〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一八〇	一八〇		
元浦	元浦	二〇〇	一七〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一八〇	一八〇		
幌別	幌別	二〇〇	一七〇	一五〇	一五〇	一五〇	一五〇	一八〇	一八〇		
天鹽	天鹽	四〇〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	一八〇	一八〇		

[illegible]

(二) 孵化及ビ放流

前記採卵數ノ中ヨリ各種供試卵五十一萬粒、ウルモベツ孵化場外一ヶ所へ分與セル五十萬三千粒及ビ養魚池底利用天然孵化ヲ行ヘル四百二十九萬七千五百粒ヲ除ク二億九千六十六萬六千粒ニ對スル死卵數ハ二千五百八十七萬九千四十二粒ニシテ之ヲ除ク二億六千四百七十八萬六千九百五十八尾ヲ孵化セリ。即チ採卵數ニ於テ豫定計畫ニ達セザリシモ孵化放流數ハ遙ニ之ヲ超過セリ。尙孵化率ハ九一・一%ニ當レリ。

稚魚ハ養魚池、孵化槽等ニ於テ飼育シ健全期ニ達シタルモノヨリ順次河川ノ狀況ヲ考慮シテ放流セリ。而シテ放流稚魚保護ノタメ隨時沿川ヲ巡視シ保護取締ヲナセリ。孵化放流成績及ビ放流期間ヲ示セバ第二表ノ通り。

第二表 鮭孵化放流成績及放流期間表

場名	採卵數	收容卵數	死卵數	孵出尾數	孵化率	放流數	放流 年月日	摘
本場	15,400,000	14,670,000	8,022,231	2,649,764	94.5%	1,000,000	七、一	千歳事業場ヨリ移植 養魚池底利用天然孵化
千歳(移植卵)	—	5,000,000	699,800	4,667,700	87.9%	1,000,000	四、一	5,000,000粒供試
尻別	2,550,000	2,550,000	222,584	2,297,410	89.8%	2,197,321	三、二五	3,000粒能生本場へ移植
朱太	3,850,000	3,850,000	285,300	3,564,700	93.6%	3,564,600	三、一〇	3,000粒能生水産學校へ分與
利別	4,385,000	4,385,000	298,945	4,086,055	93.2%	4,000,000	三、一五	2,000,000粒北見支場ヨリ移植
遊樂部	9,300,000	9,300,000	1,432,640	7,867,360	84.7%	7,841,160	四、一五	2,000,000粒頓別事業場ヨリ移植
數生	3,030,000	3,030,000	178,128	2,851,872	94.1%	2,845,000	四、一三	
勇拂	1,487,500	1,487,500	83,080	1,404,420	94.4%	1,388,100	三、二六	
新冠	600,000	600,000	41,017	618,983	93.8%	558,983	四、三	
新退	7,150,000	5,975,000	76,400	5,686,600	88.2%	4,500,000	四、三三	10,000,000粒幌別事業場へ移植
三石	4,000,000	4,000,000	75,470	3,924,530	88.1%	3,924,530	四、一八	(原卵1,150,000粒)
元浦川	7,770,000	7,770,000	28,470	6,890,030	88.7%	6,890,030	四、一三	
幌別(移植卵)	1,920,000	1,920,000	244,690	1,685,310	87.8%	1,584,120	六、五〇	
天鹽	4,275,000	4,275,000	215,100	4,067,700	86.7%	3,878,640	六、一五	染退事業場ヨリ移植

虹別	十勝	釧路	風蓮	當幌	標津	伊仁	薫別	目梨	北見	斜里	網走	常呂	徳志	頓別	國後	二木	音根	泊別
三六、一八〇、〇〇〇	一六、四〇〇、〇〇〇	六、一八五、〇〇〇	七、七七七、〇〇〇	二、〇五五、〇〇〇	七、五七〇、〇〇〇	九、三三〇、〇〇〇	一〇、九一〇、〇〇〇	一、一五五、〇〇〇	六、四〇〇、〇〇〇	二、三三三、〇〇〇	一、一八〇、〇〇〇	一、四一七、〇〇〇	一、〇五五、〇〇〇	一〇、〇六〇、〇〇〇	二、〇五七、〇〇〇	五、四〇〇、〇〇〇	一、三三三、〇〇〇	九、五八〇、〇〇〇
三六、〇七五、〇〇〇	一四、三三〇、〇〇〇	六、一八五、〇〇〇	七、七七七、〇〇〇	九、三三〇、〇〇〇	五、〇〇一、〇〇〇	九、三三〇、〇〇〇	八、三六〇、〇〇〇	一、〇一五、〇〇〇	七、三三三、〇〇〇	八、六二七、〇〇〇	五、四〇七、〇〇〇	一、四一七、〇〇〇	一、八五五、〇〇〇	八、一八四、〇〇〇	一、八三三、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	一、六三三、〇〇〇	一、九五六、〇〇〇
四、八四四、三〇〇	七、七二二、八〇〇	三、四四一、〇〇〇	四、四八八、三〇〇	六、三三三、〇〇〇	一、八二二、〇〇〇	四、四〇二、〇〇〇	二、五五五、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	六、五〇七、〇〇〇	三、九三三、〇〇〇	四、四〇七、〇〇〇	四、五五五、〇〇〇	一、〇五五、〇〇〇	七、〇〇〇、〇〇〇	一、〇五五、〇〇〇	三、三三三、〇〇〇	一、七二二、〇〇〇	一、〇五五、〇〇〇
三、一三三、七〇〇	三、三三三、七〇〇	五、八七〇、三〇〇	七、三三三、〇〇〇	八、三三三、〇〇〇	四、八八八、〇〇〇	八、八八八、〇〇〇	八、一〇七、五〇〇	九、九〇〇、〇〇〇	六、五五五、〇〇〇	八、三三三、〇〇〇	五、三三三、〇〇〇	九、七五五、〇〇〇	一、六九四、〇〇〇	七、四七四、〇〇〇	一、七八八、〇〇〇	五、八八八、〇〇〇	一、五五五、〇〇〇	一、八四九、〇〇〇
八六・六	九四・七	九五・〇	九四・三	九三・一	九三・四	九三・二	九六・九	九七・六	九〇・九	九五・四	九三・七	六八・二	八九・三	九一・三	九四・四	九六・二	九五・二	九四・六
三〇、七九九、六〇〇	三、三〇四、一〇〇	五、八二〇、三〇〇	七、二二二、五〇〇	八、五九九、七〇〇	四、八八八、七〇〇	八、七七八、二〇〇	八、〇二二、八〇〇	八、四四四、九二二	六、四四四、〇〇〇	八、二五八、一七	四、九八八、一〇	九、七三三、九〇〇	一、六八二、五七〇	七、三三三、〇〇〇	一、七六九、三三〇	五、七七三、〇〇〇	一、五五三、〇〇〇	一、八三三、〇七〇
二、一〇〇、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	四、四四四、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇
(四、三三三、〇〇〇粒當幌事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)	(三、三三三、〇〇〇粒釧路事業場へ移殖)

擇提 (移殖卵)	老門	羅白	年那	紗那	有那	別飛	當路	比良	計
九、一七二、五〇〇	三、〇一五、〇〇〇	四、一四〇、〇〇〇	一、〇五五、〇〇〇	一、一四〇、〇〇〇	二、五九〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	九、九七五、〇〇〇	三、二六二、五〇〇	二五、九七五、〇〇〇
八、七三二、五〇〇	三、〇一五、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	一、〇五五、〇〇〇	一、一四〇、〇〇〇	二、五九〇、〇〇〇	一、四〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇	三、二六二、五〇〇	二〇、六六六、〇〇〇
七、八八〇、〇〇〇	一、六八四、〇〇〇	一、六八四、〇〇〇	五、五〇〇、〇〇〇	一、一八二、五〇〇	二、五九〇、〇〇〇	七、〇一五、〇〇〇	三、六三三、〇〇〇	一、六三三、〇〇〇	二五、八七五、〇〇〇
七、九四四、四〇〇	二、六八四、〇〇〇	二、六八四、〇〇〇	一、〇五五、〇〇〇	一、一八二、五〇〇	二、五九〇、〇〇〇	一、三九八、五〇〇	四、六三三、〇〇〇	三、二六二、五〇〇	二六、七六六、九五八
九・〇	九四・九	九四・五	九四・九	九四・九	九三・一	九三・八	九三・三	九三・〇	九一・一
六、三三三、一〇〇	二、八三三、五五	二、八三三、五五	二、八三三、五五	二、八三三、五五	二、四六六、三三	三、三三三、一〇〇	七、三三三、一〇〇	三、〇八八、三七〇	二六、六六二、八五〇
六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇	六、三三三、〇〇〇
五、〇〇〇、〇〇〇粒ウルモベツ孵化場へ分與	羅白事業場ヨリ移殖	一、一四〇、〇〇〇粒擇提支場へ移殖					四、三三三、〇〇〇粒養魚池底利用天然孵化	供試卵五〇、〇〇〇粒 分與卵五〇、〇〇〇粒 養魚池底利用天然孵化	養魚池底利用天然孵化

鱒孵化事業

本年度鱒人工孵化実績ハ採卵數八千三百三十四萬六千五百粒、孵化放流數七千四百一十二萬三千五百七十九尾ニシテ豫定計畫ニ對シ採卵率六七・七八%、孵化放流率六五・二%ヲ示ス不成績ニ終了セリ。之ヲ詳記スレバ左ノ如シ。

(一) 親魚捕獲及採卵

本年度親魚捕獲場所ハ千歳川外五十九箇所ニシテ内天鹽第四、湧別第四、渚滑第四、斜里第三及徳志別ノ五捕獲場ハ前年度同様櫻鱒卵充實ノ目的ヲ以テ充分ナル營養設備ノ下ニ六月ヨリ捕獲ヲ開始セルモ、其ノ他ハ例年通捕獲ニ着手シ、十月三十一日北見支場所屬各捕獲場ヲ最後トシテ終了セリ。捕獲場所及期間ヲ示セバ第三表ノ通。

樺太鱒親魚捕獲採卵成績及期間表

常呂	第三	第四	第五	德志別	北見管内計	音根別	泊	國後管内計	擇捉管内計	合計
七四	一	五五	二〇	七二	三、〇六	六	二四	二〇	四二	六、七八
九	一	一八	二七	五四七	一、四七五	四	二〇三	二〇六	一四	三、六七五
八三	一	七三	一五七	一、四〇九	四、五〇一	一〇	三二六	三二六	五七	一〇、三九三
六七	一	五〇	一七	五五	一、九二四	六	(増水ノタメ營養魚全部逃逸)		四三	三、九六三
八	一	二二	二〇	九六	五二〇	四			一四	一、三五八
七五	一	六二	三七	六二	二、四二四	一〇		一〇	五七	五、三二一
二七、五〇〇	一	一〇〇,〇〇〇	三七、五〇〇	一、四五〇,〇〇〇	三、五九七、五〇〇	一〇,〇〇〇		一〇,〇〇〇	七六、〇〇〇	八、五〇三、五〇〇
八二、〇〇〇	八、八九	一〇、一〇	六、一五	九、三	七、二九	一〇、五	七、二九	八、二六	九、九	

[illegible]

第四表ノ一 櫻鱒孵化放流成績及放流期間表

場名	採卵數	收容卵數	死卵數	孵出尾數	孵化率	放流數	放流 自月 至月 日	摘 要
千歲 (移殖卵)	七三、〇〇〇	三七、五〇〇	四二、〇〇〇	三三、三〇〇	八八・八	三三、〇〇〇	五、一	三〇、〇〇〇粒分與(原卵三三、〇〇〇粒) 斜里事業場ヨリ移殖試驗用
尻太別	五二、〇〇〇	一七、五〇〇	一七、〇〇〇	一五、八〇〇	九〇・二	四〇、〇〇〇	三、五	四〇、〇〇〇粒分與(原卵五二、〇〇〇粒)
朱太別	三七、〇〇〇	三七、五〇〇	二、〇〇〇	三三、〇〇〇	九八・一	三三、八〇〇	三、三	
天鹽別	三七、〇〇〇	三七、五〇〇	二、〇〇〇	六五、〇〇〇	九四・七	六五、〇〇〇	三、一	
虹別	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	三三、七〇〇	二、一七八、三〇〇	九〇・七	二、一五一、九〇〇	二、二八	
風蓮別	四三三、〇〇〇	四三三、五〇〇	一六、〇〇〇	四〇六、四〇〇	九六・一	三九七、四〇〇	三、〇	
標津	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	七、五〇〇	九二、四〇〇	九二・四	九〇、六〇〇	二、二	
伊仁	一八二、〇〇〇	一八二、五〇〇	一、三〇〇	一七一、二〇〇	九三・七	一六八、七〇〇	四、三	
目梨	二七、〇〇〇	—	—	—	—	—	四、一五	河底利用天然孵化
北見	八三三、〇〇〇	五七二、五〇〇	八五、〇〇〇	四八七、五〇〇	八五・一	四八〇、〇〇〇	四、一六	河底利用天然孵化
斜里	一五二、〇〇〇	一四五、〇〇〇	一七、三〇〇	一三二、六〇〇	八八・四	一三二、八、六五	三、四	二〇、〇〇〇粒分與(原卵一五二、〇〇〇粒)
常呂	三七、五〇〇	八七、五〇〇	二五、一〇〇	六二、四〇〇	七一・三	六〇、〇〇〇	四、四	一七、五〇〇粒分與(原卵三七、五〇〇粒)
德志	一、〇〇五、〇〇〇	九七五、〇〇〇	六〇、六〇〇	九二四、三〇〇	九三・七	九〇四、八〇〇	五、二五	六〇、〇〇〇粒分與
音根	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	四〇〇	九六、〇〇〇	九六・〇	九六、〇〇〇	二、二五	五、五〇〇粒分與
合計	八、五三三、〇〇〇	七、九四一、〇〇〇	七五〇、六〇〇	七、一八九、三〇〇	九〇・五	七、二〇六、九五	五、一〇	五、五〇〇粒分與 三七、五〇〇粒河底利用天然孵化

第四表ノ二 樺太鱒孵化放流成績及放流期間表

場名	採卵數	收容卵數	死卵數	孵出尾數	孵化率	放流數	放流 自月 至月 日	摘 要
虹蓮別	五九五、〇〇〇	五九五、〇〇〇	九〇、五〇〇	五〇四、五〇〇	八四・七	五〇四、〇〇〇	二、二五	
當幌	三、七四七、五〇〇	三、七四七、五〇〇	二六、一〇〇	三、四八六、四〇〇	九三・〇	三、四七六、一〇〇	三、一	
標津	三七、五〇〇	三七、五〇〇	二、四〇〇	二四、〇〇〇	九一・六	二四、〇〇〇	三、一	
伊仁	三三七、五〇〇	三三七、五〇〇	二、五〇〇	三三四、〇〇〇	九三・四	三三八、六〇〇	四、三	
目梨	二、〇〇〇	—	—	—	—	—	四、二五	河底利用天然孵化
北見	三、五〇七、五〇〇	三、五〇七、五〇〇	四四、八〇〇	三、〇五二、六〇〇	八七・〇	二、九九一、〇〇〇	四、二五	
斜里	二、四〇〇、〇〇〇	二、四〇〇、〇〇〇	五五、五〇〇	一、〇五〇、五〇〇	九五・〇	一、〇四八、七五〇	四、二	
網走	六、〇〇〇	六、〇〇〇	四二、四〇〇	五七七、五〇〇	九三・一	五七七、〇〇〇	四、二五	
常呂	一、四七五、〇〇〇	一、四七五、〇〇〇	一五、二五〇	一、三二二、二五〇	八九・四	一、二九三、二五〇	四、二五	
德志	四、二七五、〇〇〇	四、二七五、〇〇〇	三九、八五五	三、八七六、四六五	九〇・六	三、八六三、二六五	五、四	
音根	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	一三、六〇〇	一、八九七、三四〇	九四・八	一、八九七、三四〇	五、三	
擇捉 (移殖卵)	四、五五五、〇〇〇	四、五五五、〇〇〇	一〇〇、一〇〇	三、五三四、六〇〇	九三・二	三、四九六、〇〇〇	五、八	羅臼事業場ヨリ移殖
老門	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	五七、五〇〇	九四四、一〇〇	九六・八	一、四八二、六〇〇	五、〇	
白門	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	三三、八〇〇	九四四、一〇〇	九三・六	九三〇、六〇〇	五、〇	
年羅	一、五五五、〇〇〇	一、五五五、〇〇〇	四二、三〇〇	一、一七〇、七〇〇	九六・六	五六七、六二六	四、二〇	擇捉支場へ移殖

種別	有那	比良	常路	別飛	縹鱒太鱒合計
卵數	二、三、八、〇、〇、三、七、八、〇、〇	七、三、八、四、〇、〇、七、八、〇、〇、〇	二、七、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	二、〇、四、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	八、一、三、〇、五、〇、〇、七、八、〇、〇、〇
死卵數	六、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	八、五、五、〇、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	四、九、三、八、四、五、七、八、〇、〇、〇
孵出尾數	四、五、八、〇、〇、二、八、二、一、〇、〇	一〇、九、〇、〇、二、六、八、〇、三、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇、〇	四、九、三、八、四、五、七、八、〇、〇、〇
孵化率	九、五、九、二、三、三、三、三、三	九、六、〇、二、六、五、四、九、三、〇	九、六、〇、二、六、五、四、九、三、〇	九、六、〇、二、六、五、四、九、三、〇	九、三、七、〇、〇、四、三、五、七、九
放流數	五、四	五、三	六、六、三	四、五	四、五
摘	養魚池底利用天然孵化	養魚池底利用天然孵化	養魚池底利用天然孵化	養魚池底利用天然孵化	養魚池底利用天然孵化

姫鱒孵化事業

本年度支笏湖ニ於ケル姫鱒繁殖状況ハ良好ナリシモ産卵期前ニ多數釣獲セラレタルタメ親魚數ヲ減少シタルト、生殖巢ノ萎縮ノモノアリテ豫定計畫ニ對シ僅ニ二・一五％ニ當ル不成績ニ終リタリ。親魚捕獲數雌五百九十尾、雄一千七百二十二尾、計二千三百二十二尾、採卵數四萬三千粒ナリ。採卵狀況右ノ如クナリシヲ以テ之ガ補充並ビ魚体改善ノ見地ヨリ前年度ニ引續キ擇提島ウルモベツ孵化場産紅鱒卵五十萬粒ヲ移殖シ孵化放流セリ。孵化放流成績左表ノ通。

種類	卵數	死卵數	孵出尾數	孵化率	放流數	放流期間	摘
紅 姫 鱒	四三、〇〇〇粒	四、〇〇〇粒	三八、八〇〇尾	九〇・二％	三八、八〇〇尾	自 至 月 月 日 日	摘
二木城事業場	四九八、〇〇〇	六、〇〇〇	四九二、〇〇〇	九六・七	四九二、〇〇〇	〃	内一万尾標識試験放流 運搬害死卵二千粒 内二万尾標識試験放流

害魚驅除

孵化事業ノ成果ヲ確保センガタメ左記ノ通り特ニ施行セリ。

場 名	期 間	施行河川	方 法	魚 種	驅除數	摘
國 後 支 場	自昭和二年九月一日 至昭和二年十月一日	アンノロ川	上リウライ	雨 鱒	一八、五尾	
二木城事業場	自昭和二年七月一日 至昭和二年八月三日	二木城川 アウグノイ川	刺上リウライ 網イ	雨 鱒	一、九二一 一、〇四九	

種卵配付及事業用種卵ノ移殖

(一) 種 卵 配 付

道内河川湖沼ヘノ移殖、民間養鱒事業ノ發達及學術研究ニ資スルタメ鮭卵五十萬三千粒、鱒卵四十六萬粒、虹鱒百五十萬一千粒ヲ左ノ通り配付セリ。

魚 種	卵 數	産 地	配 付	先	摘
鮭	五〇〇、〇〇〇粒	擇提支場	擇提郡内保村字ウルモベツ	ウルモベツ孵化場	
計	五〇〇、〇〇〇粒	千歲事業場	新湯縣能生町	能生水産學校	
鱒	五〇〇、〇〇〇粒	尻別事業場	龜田郡七重村	和田一夫	
〃	二〇〇、〇〇〇粒	北見支場常呂事業場	上川郡上川村	上川養魚組合	北見支場二〇〇、〇〇〇粒
〃	一〇〇、〇〇〇粒	北見支場	帶廣市オベリベリ	江川定吉	常呂事業場二〇〇、〇〇〇粒
〃	一〇〇、〇〇〇粒	常呂事業場	常呂郡置戸村	中西義麻呂	
〃	一〇〇、〇〇〇粒	〃	旭川市二條通八丁目	濱師久藏	
〃	四〇、〇〇〇粒	尻別事業場	札幌市南六條西一丁目	吉野武者二	
〃	六〇、〇〇〇粒	德志別事業場	札幌市北十一條西三丁目	東 富 七	

事業用種卵ノ移殖

萬七千粒ナリ。詳細左表ノ通り。

種	數	卵	數	移	殖	先	産	地
鮭	三〇〇,〇〇〇	本	千歳事業場	千歳事業場	鮭	一,〇五〇,〇〇〇	幌別事業場	染退事業場
〃	二,〇〇〇,〇〇〇	〃	〃	北見支場	〃	四,三〇〇,〇〇〇	常幌事業場	虹別支場
〃	二,〇〇〇,〇〇〇	〃	〃	十勝事業場	〃	二,四二五,〇〇〇	〃	標津事業場
〃	一,〇〇〇,〇〇〇	〃	〃	頓別事業場	〃	五五〇,〇〇〇	〃	薰別事業場

虹	鯉	小	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉	鯉
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
50,000	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
虹別支場	千歲事業場	上磯郡上磯町	上磯郡上磯町	上磯郡上磯町	上磯郡上磯町	上磯郡上磯町	上磯郡上磯町	上磯郡上磯町	上磯郡上磯町
常呂郡野付牛町	河西郡大正村大字幸震	虻田郡俱知安町後志支廳內	中川郡幕別村	上磯郡上磯町	茅部郡鹿部村	札幌市石狩支廳內	雨龍郡納内村	上磯郡上磯町	上磯郡上磯町
新保孫次郎	小林秀太郎	後志水產會	白人農業青年學校	山本梅之助	鹿部漁業協同組合	石狩水產會	中川嘉一	渡邊照平	渡邊照平

[illegible]

鯉	二、二五〇、〇〇〇	虹別支場	蘆別事業場	樺太	一、八〇〇、〇〇〇	擇捉支場	羅別事業場
鯉	一〇〇、〇〇〇	蘆別事業場	目梨事業場	鯉	一五〇、〇〇〇	利別事業場	虹別支場摩周湖
鯉	六、四〇五、〇〇〇	斜里事業場	網走事業場	鯉	三〇、〇〇〇	千歲事業場	〃
鯉	八〇〇、〇〇〇	德志別事業場	頓別事業場	鯉	三〇、〇〇〇	國後支場	〃
鯉	一、〇〇〇、〇〇〇	泊事業場	國後支場	鯉	一〇、〇〇〇	十勝事業場	〃
鯉	六〇〇、〇〇〇	二木城事業場	〃	鯉	一〇、〇〇〇	本場	千歲事業場
鯉	一、一〇〇、〇〇〇	擇捉支場	羅白事業場	計	三、〇〇〇	〃	〃
鯉	二五、六五〇、〇〇〇	千歲事業場	斜里事業場	計	一〇、〇〇〇	〃	〃
鯉	一七、五〇〇	〃	〃	計	〃	〃	〃

試驗及調査

目(一) 鮭卵砂利床孵化試驗的

前年度ニ繼續施行セルモノニシテ、前回同様ノ方法並ビニ孵化盆、金網函等ヲ使用シ、湧水及ビ河水ニ依ル成績ヲ知リ以テ孵化用水ノ枯渇及ビ孵化器具不足ノ場合ニ於ケル應急處置ノ參考ニ供セントス。

方法

試驗卵十五萬八千粒ヲ次ノ如ク三部及ビ對照ニ分チ夫々左記ノ方法ニヨリ施行セリ。

第一部 二萬四千粒 湧水利用

群號	種別	發育程度	砂利被覆厚サ	試驗卵數	備	考
一	BA	採卵後五時間	一五糎 三〇	三、〇〇〇粒 三、〇〇〇		

二	三	四
DC	FE	HG
採卵後十五日	採卵後三十五日	採卵後四十五日
一五 三、〇〇〇	一五 三、〇〇〇	一五 三、〇〇〇
二群以下ハ孵化室收容中ノモノヨリ採リテ埋沒ス	發眼後	發眼後

各群共面積三十平方糎、高サ三十糎(砂利被覆十五糎ノモノ)及ビ四十五糎(砂利被覆三十糎ノモノ)ノ金網枠中ニ徑一乃至三糎ノ砂利ヲ以テ埋沒ス。

第二部 九萬三千粒 河水利用

種別	試驗卵數	方	法	備	考
A	三、〇〇〇粒	其ノ儘埋沒			
B	三、〇〇〇	縱十二糎、横十糎深一糎ノ金網函十箇ニ夫々三百粒宛收容シ			
C	三、〇〇〇	重ネテ埋沒			
1	三、〇〇〇	縱、横三十三糎、深五糎ノ金網函ニ收容シ埋沒			
2	三、〇〇〇	アトキンス孵化盆二枚ニ盛リ蓋ヲシ並列ニ埋沒			
3	三、〇〇〇	二枚重ネトシ蓋ヲシテ埋沒			
4	四、五〇〇	三枚重ネトシ蓋ヲシ「スタック」ニ入レ埋沒			
5	六、〇〇〇	四枚			
6	七、五〇〇	五枚			
7	九、〇〇〇	六枚			
8	一〇、五〇〇	七枚			
	一二、〇〇〇	八枚			

10 9	三、五〇〇 五、〇〇〇	アトキンス孵化盆九枚重ネトシ蓋ヲシ「スタック」ニ入レ埋没 十枚
------	----------------	------------------------------------

第一部同様ノ金網枠中ニ徑一乃至三糎ノ火山礫ヲ以テ埋没ス。

第三部 三萬粒 孵化室、孵化槽利用

總テ第二部ト同様ニシテ孵化槽ニ砂利ヲ以テ埋没セリ。但シB號ハ五個、孵化盆使用ノモノハ五枚重ネ迄ヲ施行セリ。

各部水量、水温次表ノ如シ。

部	ヲ一分通過スル平方尺	水ノ種類	水			温 (攝氏)		
			最	高	最	低	平	均
一	立	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧
二	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧
三	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧	湧

對照卵一萬一千粒、事業卵同様處理ス。

期間

自昭和十一年一月二十七日

至昭和十一年六月二十七日

經過並結果

第一部

各群共一月三十一日同時ニ施行シ、六月十三日終了セリ。經過及び成績左ノ如シ。

群號	種別	卵試驗數	月發	月眼	月孵化開始	月砂利上脱	月浮	月游	月取	日揚	尾取	斃死數	埋没時	孵化率	備考
一	B A	〇〇〇 〇〇〇	(四) (四)	(四) (四)	(七) (七)	(五) (五)	(六) (六)	(六) (六)	(六) (六)	(六) (六)	八三	二、三〇	七	三六・四	括弧内ハ埋没後ノ日數ヲ示ス
二	D C	〇〇〇 〇〇〇	(四) (四)	(四) (四)	(五) (五)	(六) (六)	(六) (六)	(六) (六)	(六) (六)	(六) (六)	一、四七	二、三三	七	五二・五	
三	F E	〇〇〇 〇〇〇	(四) (四)	(四) (四)	(五) (五)	(六) (六)	(六) (六)	(六) (六)	(六) (六)	(六) (六)	二、四四	五、九四	一	八〇・〇	
四	H G	〇〇〇 〇〇〇	(四) (四)	(四) (四)	(五) (五)	(六) (六)	(六) (六)	(六) (六)	(六) (六)	(六) (六)	二、七七	三、九〇	一	八七・〇	

第一部對照卵ノ成績左ノ如シ。

群號	採卵月日	孵出月日	卵數	孵出數	浮游數	浮游率	臍囊吸	備考
一	一、一、二	二、四、二	五〇〇	四七九	四七〇	九四・〇六	二前後	
二	一、一、七	二、三、六	五〇〇	四七〇	四六三	九二・四五	二〇	
三	一、一、一六	二、二、六	五〇〇	四八八	四七八	九七・六四	三〇	
四	一、一、一八	二、二、八	五〇〇	四九一	四八五	九七・〇四	二〇	

第二部

各種共一月二十八日同時ニ施行シ六月二十七日終了セリ。經過及び成績左ノ如シ。

種別	卵試験數	月發日	孵化開始月日	砂利上脱出月日	月取揚	取揚尾數	病畸兒型	斃死數	埋沒時死卵數	孵化率	備考
A	三、〇〇〇	(四、一)	(五、九)	(六、一〇)	(六、五)	一六尾	水腫一尾	二、八三〇	三粒	五三・三%	括弧内ハ埋沒後ノ日數ヲ示ス
B	三、〇〇〇	"	"	"	"	(五、一)全滅	"	(五、一)全滅	六	二・四	全滅
C	三、〇〇〇	"	"	"	"	八九	"	二、二二	"	二九・三	"
1	三、〇〇〇	"	"	"	"	七六	"	二、三六	"	二五・四	"
2	三、〇〇〇	"	"	"	"	五九	"	三、〇九	"	二二・一	"
3	四、五〇〇	"	"	"	"	七五	彎曲一	五、二六五	"	二二・二	"
4	六、〇〇〇	"	"	"	"	七四	"	六、七六	"	九・七	"
5	七、五〇〇	"	"	"	"	六五	"	八、三七五	"	六・九	"
6	九、〇〇〇	"	"	"	"	四三	"	一〇、〇六八	"	四・一	"
7	一〇、五〇〇	"	"	"	"	一、二三	水腫一	一〇、八七	"	九・三	"
8	一二、〇〇〇	"	"	"	"	九六	"	一二、五四三	"	七・〇	"
9	一三、五〇〇	"	"	"	"	五三	"	一四、四七九	"	三・四	"
10	一五、〇〇〇	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"

第三部

各種共一月二十七日同時ニ施行シ、五月二十八日終了セリ。經過及び成績左ノ如シ。

種別	卵試験數	月發日	孵化開始月日	砂利上脱出月日	月取揚	取揚尾數	病畸兒型	斃死數	埋沒時死卵數	孵化率	備考
A	三、〇〇〇	(三、二六)	(三、九)	(四、三)	(五、一)	三六尾	彎曲二	二、六〇七	二粒	三三・〇%	括弧内ハ埋沒後ノ日數ヲ示ス死卵ハ殆ド發眼ス
B	一、五〇〇	"	"	"	"	(四、一)全滅	彎曲二	(三、二)全滅	一	三・六	死卵ハ殆ド發眼シ水面ニ近キ程水生菌ノ着生多シ
C	一、五〇〇	"	"	"	"	三	"	(五、一)全滅	"	〇・四	死卵ハ殆ド發眼シ塊狀ヲナス
1	一、五〇〇	"	"	"	"	一、四六	彎曲一	二、九八	"	九・四	"
2	三、〇〇〇	"	"	"	"	二、五七	彎曲一	四三	"	八五・九	"
3	四、五〇〇	"	"	"	"	二、七四	"	一、七五七	"	六〇・九	"
4	六、〇〇〇	"	"	"	"	四、七三	彎曲一	一、三三七	"	七九・五	"
5	七、五〇〇	"	"	"	"	五、三六	双兒二	二、二四	"	七・八	"

第二部及第三部對照卵ノ成績左ノ如シ。

卵數	採卵月日	孵化月日	浮游月日	浮游數	浮游率	備考
二、五〇〇粒	一月二十七日	三月二十九日	五月二十七日	二、四五〇尾	九八・〇%	

第一部ニ於テハ前回ニ比シ概シテ成績良好ニシテ、特ニ砂利被覆ノ厚キ方良好ナル結果ヲ得、前回ト全ク反對ノ結果ヲ示セリ。此ノ原因ト觀ラル、ハ、本年度施行セル場所ハ前回ト同一ニシテ、附近ノ地盤方再度掘返ヘサレタルタ

Control	No. 4	No. 3	試験 區號	番
2.60	1.77	2.40	1	
2.55	1.85	2.44	2	
2.30	1.82	2.38	3	
2.20	1.80	2.55	4	
2.25	1.64	2.10	5	
2.45	1.70	2.40	6	
2.45	1.80	2.38	7	
2.65	1.80	2.42	8	
2.35	1.83	2.45	9	
2.27	1.67	2.15	10	
2.40	1.76	2.36	均 平	
		固定魚ニ付キ金長ヲ測定ス以下同	備	
			考	

第三表 魚体測定表

Control	No. 5	No. 4	No. 3	No. 2	No. 1
2	孵出セルモノナシ			"	孵出セルモノナシ
11			1		
0			5		
0			0		
1			0		
1			0		
4			1		
14			2		
13			5		
33		5	16		
24		0	16		
19		1	30		
9		0	27		
9		0	19		
1		0	4		
2		0	11		
5		0	11		
6		0	5		
1		1	4		
2		2			
0		2			
0		5			
0		3			
2		0			
		1			
		7			
		6			
		7			
		8			
		7			
		4			
		0			
		3			
		88.2	75.6		

日	数
63	
64	
65	
66	
67	
68	
69	
70	
71	
72	
73	
74	
75	
76	
77	
78	
79	
80	
81	
82	
83	
84	
85	
86	
87	
88	
89	
90	
91	
92	
93	
94	
95	
96	
均 平	

第二表 孵化日數表

Control		No. 5		No. 4		No. 3		No. 2	
計果	計	計果	計	計果	計	計果	計	計果	計
	0		2		1		0		1
	0	8	6	1	0		0		0
1	1	23	15	1	0		0		0
2	1	176	153	1	0		0		0
2	0	186	10	2	1		4		0
2	0			4	2	5	1		0
3	1			4	0	5	0	3	2
3	0			4	0	5	0	4	1
5	2			4	0	5	0	18	14
8	3			5	1	5	0	32	14
8	0			10	5	6	1	174	142
14	6			10	0	8	2		
17	3			10	0	11	3		
21	4			18	8	14	3		
28	7			77	59	15	1		
29	1			88	11	17	2		
30	1			100	12	17	0		
30	0			111	11	17	0		
				115	4	18	1		
				116	1				
85.0		—		34.83		89.71		—	
2		—		6		1		—	
2		—		—		—		—	
2月12日				2月20日		2月12日		2月12日	
3月11日				3月21日		3月12日			

本試験ノ結果第三區最良ノ成績ヲ示シ、流水式孵化法ト略同等ナル結果ヲ得タリ。

第二 最適換水期間決定試験

方法

第一試験ニ於テ決定セル最適水深タル第三區ヲ用ヒ、換水期間ヲ毎五・十五日トスル三個ノ一立ビーカーニ試験卵ヲ收容シ、第一試験ト同様ナル方法ニ處理ス。

期間

自昭和十二年一月七日
至昭和十二年四月七日

經過

昭和十二年一月七日採卵ノ鮭卵ヲ用ヒ各區同日施行セリ。經過並成績左ノ如シ。

第一表 死卵出現ノ經過表

No. 1	計累	計	死卵數	
			月 日	月 日
			1. 7	1. 12
	0		1. 13	1. 17
	0		1. 18	1. 22
	0		1. 23	1. 27
	0		1. 28	2. 1
1	1		2. 2	2. 6
1	0		2. 7	2. 11
1	0		2. 12	2. 16
1	0		2. 17	2. 21
1	0		2. 22	2. 26
1	0		2. 27	3. 3
2	1		3. 4	3. 8
5	3		3. 9	3. 13
17	12		3. 14	3. 18
27	10		3. 19	3. 23
31	4		3. 24	3. 28
			4. 29	4. 2
			4. 3	4. 7
81.76			(%)率化孵	
3			(尾)全完不	
1			(尾)數兒出孵	
5			(日)間期水換	
170			(粒)數卵驗試	

第二表 孵化日數表

Control		No. 3		No. 2	
計累	計	計累	計	計累	計
	6		0		1
6	0		0	1	0
6	0		0	1	0
6	0		0	2	1
7	1	1	1	4	2
7	0	1	0	4	0
7	0	1	0	4	0
8	1	1	0	4	0
10	2	2	1	4	0
10	0	4	2	5	1
14	4	5	1	13	8
19	5	15	10	20	7
19	0	26	11	23	3
22	3	29	3	28	5
22	0	31	2	31	3
		31	0		
		31	0		
89.0		82.58		80.38	
2		4		3	
0		1		1	
		15		10	
200		178		158	

Control	No. 3	No. 2	No. 1	出孵 數尾	日
		3		60	
	1	12		61	
6	6	3		62	
30	0	0		63	
1	0	0	2	64	
4	0	0	20	65	
5	0	1	5	66	
4	1	1	0	67	
7	1	1	1	68	
13	3	5	0	69	
27	5	0	1	70	
31	5	3	2	71	
14	15	8	7	72	
17	20	17	19	73	
11	22	12	27	74	
5	12	15	15	75	
1	13	18	11	76	
2	10	6	7	77	
	9	6	8	78	
	4	5	6	79	
	1	2	5	80	
	5	1	0	81	
	7	0	2	82	
	1	8	1	83	
	0			84	
	0			85	
	0			86	
	1			87	
69.16	74.37	73.11	78.07	均 平	

第三表 魚体測定表

番	試 驗 號	No. 1	No. 2	No. 3	Control
1	1	2.10	2.50	2.45	2.85
2	2	2.20	2.55	2.50	2.70
3	3	2.50	2.30	2.35	2.67
4	4	2.30	2.15	2.50	2.85
5	5	2.32	2.42	2.50	3.00
6	6	2.20	2.55	1.85	2.65
7	7	2.40	2.60	2.25	2.45
8	8	1.75	2.30	2.25	2.60
9	9	2.35	2.35	2.27	2.50
10	10	2.20	2.15	2.40	2.60
均	平	2.23	2.38	2.33	2.68
備	考	固定魚ニ付キ全長ヲ測定ス			

結論

- 一、卵子ガ辛ジテ水面下ニ没スル程度ノ水深ニ於テ、止水式孵化法ハ最モ良好ナル成績ヲ得タリ。
- 二、換水期間ハ毎十五日トスルモ差支ヘナクソレ以上延長シ得ルヤ否ヤハ未ダ不明ナリ。
- 三、本法ハ流水式孵化法ニ比較シテ多少孵出期ヲ遅延ス。
- 四、孵出セル稚魚ハ小形ナルモ孵化成績ハ著シク劣ラズ。

目(三) 各種魚類ノ混養飼育試験(本場)的

鱒類ヲ主トシ各種淡水魚類ヲ同一池内ニ混養飼育シ、其ノ成長度、歩留及相互關係等ニ就キ試験セントス。

方法

鱒、虹鱒、河鱒、紅鱒、鮭、鮭(以上二年魚)、鰻(推定年齢三年魚)、鱈(推定年齢四年魚)ヲ面積二十四坪ノ養魚池ニ混養飼育セリ。

期間

自昭和十一年五月五日
至昭和十一年八月二日

經過並結果

五月五日鱈ヲ除キ試験ヲ開始セリ。開始時ニ於ケル体長、体重及總重量左ノ如シ。

魚種	全長	最大	最小	平均	體重	最大	最小	平均	總重量	放養數	備考
虹鱒	一九・五	二二・〇	一六・五	一八・五	七・〇	一〇・〇	四・〇	六・六	二、八〇〇	六〇尾	養魚池ニ飼育中ノモノ
河鱒	一五・八	二〇・〇	一〇・〇	一三・〇	三・〇	六・〇	一・〇	二・〇	一、一〇〇	六〇	〃
紅鱒	一八・〇	二〇・〇	一〇・〇	一三・九	三・〇	六・〇	一・〇	二・〇	八三〇	四〇	〃
鮭	一九・〇	二二・〇	一〇・〇	一五・七	三・〇	八・五	一・〇	二・〇	一、〇〇〇	六〇	〃
鮭	一九・〇	二二・〇	一〇・〇	一五・七	三・〇	八・五	一・〇	二・〇	一、〇〇〇	六〇	〃
鮭	一三・三	一五・〇	一〇・〇	一二・四	三・〇	五・〇	一・〇	一・六	五七〇	六〇	長都沼産
鰻	一三・〇	一五・〇	一〇・〇	一二・三	三・〇	五・〇	一・〇	一・六	一、〇〇〇	六〇	千歳川産
鱈	一六・〇	二〇・〇	一〇・〇	一三・三	三・〇	七・一	一・〇	一・六	一、〇〇〇	六〇	六月四日放養

餌料ノ成分左ノ如シ。

經過並結果

餌料ノ成分及

開始當時ニ於ケル魚体左ノ如シ。

終了時ニ於ケル成績左ノ如シ。

以上ニ依リ帆立肝臟ハ虹鱒ノ増肉餌料トシテハ相當有効ニシテ乾燥セルモノヨリモ、鹽藏ノモノヲ鹽拔キシタルモ

(五) 虹鱒養殖試驗 (虹別支場)

虹鱒繁殖事業指導上ノ參考資料ニ供スルタメ、前年度ニ繼續シ施行セルモノニシテ、今回ハ特ニ稚魚時代ノ投餌量ト放養量トノ關係ヲ識ラントス。

尾、三百尾トシ鮭、鱒老魚ノ生肉ヲ肉挽器ニカケ各池ニ等量ヲ一日二回散布投與セリ。

自昭和十一年八月十一日

至昭和十一年十二月九日

昭和十一年六月十二日摩周湖採卵、七月十九日孵化セルモノヲ八月十一日試験池ニ放養シ投餌ヲ開始シ六十日、百二十日ノ二回ニ減耗率及ビ成長度ヲ調査シ、百二十日ヲ以テ健全期ニ達セルタメ終了セリ。

試驗區	面積 (坪)	放養尾數 (尾)	殘存尾數 (尾)	減耗率 (%)	投餌量 (斤)	備考
一	三	七五	六〇日 一二〇日	六〇日 一二〇日 計	一日 六日 六日 三日	
		三三	五〇	一七・三 八・二 二五・三	〇・三 一・〇	

二	三	四
一、五〇〇	三、〇〇〇	一、五〇〇
一、〇〇五	二、二九八	一、〇八六
九九四	一九七	九七一
一九六	三三・四	二七・四
一四・一	三三・〇	七・八
三三・七	三六・四	三五・二
〇・三	〇・三	〇・三
一・〇	一・〇	一・〇

以上ニ依リ坪二百五十尾ノモノ最モ成績良好ニシテ、漸次放養尾數ヲ増スニ從ヒ成績低下スルモ、放養率ノ大ハ或程度迄ハ投餌量ノ増加ニ依リ補ハルルヲ以テ稚魚時代ハ相當集約的ニ飼育スルヲ有利ナリト認メラル。四區ハ成長良好ナレドモ初期減耗多ク且餌付ニ不便ナルヲ知レリ。

北見ニ於ケル湧別、常呂及ビ頓別ノ各河川ハ往時相當多數ノハツ目鰻ノ溯上ヲ見タルモ逐年減少シ、現在ハ僅ニソノ跡ヲ留ムル状態ニ過ギズ。仍テ之ガ蕃殖保護ノ必要ヲ認メ、先ヅ本種ノ生態ヲ調査スルト共ニ増殖上必要ナル人工繁殖方法ヲ識ラントス。

湧別川及ビ渚滑川ニ春季溯上スルハツ目鰻ヲ捕獲シ、産卵期ニ至ル迄蓄養シ其ノ生體ヲ調査シ、且人工採卵ヲ行ヒ或ハ天然蕃殖ノ狀況ヲ觀察セリ。

自昭和十一年五月十四日

至昭和十一年八月八日

一、親魚ハ成熟迄相當長期間蓄養スル爲メ面積狹キ鹵活州ニテハ不適當ニシテ、天然狀態ニ近キ蓄養池ヲ設クル必要アルヲ認ム。

二、鮎、公魚卵ニ用フルガ如キ孵化盆ハ適當セズ。

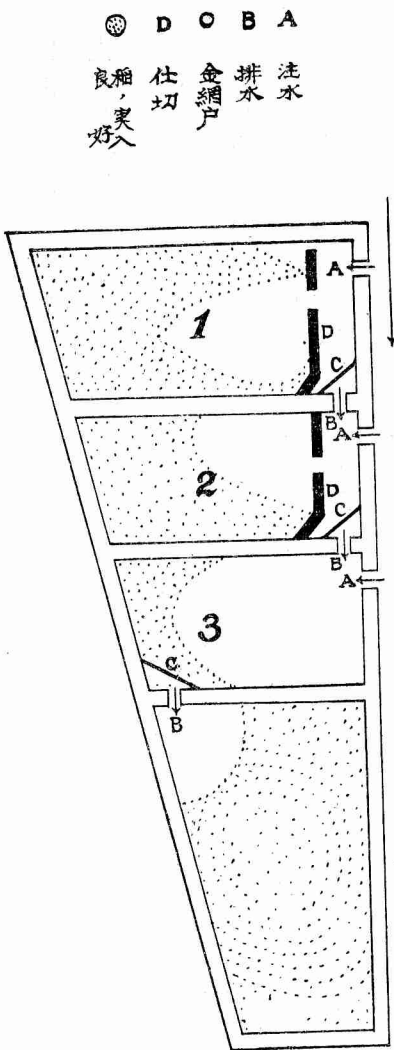
三、卵ハ半粘着性ナルタメアトキンス孵化盆ヲ棕櫚皮ニテ二重張トシ、孵化槽中ニテ孵化セシムル場合ハ可能性アレドモ、水生菌發生防止方法其ノ他ニ付尙研究ヲ要ス。

前年度ノ繼續試験ナリ。

前年度ノ結果ニ鑑ミ本年度ハ飼育方法並ビニ供試水田ノ構造等ヲ變更シテ施行セリ。即チ供試魚ハ孵出後健全期ニ達スル迄約二ヶ月間養魚池ニテ給餌飼育ノ後左ノ如ク試験水田ニ放養セリ。

試驗區	面積(坪)	放養尾數(尾)	坪當放養尾數(尾)	放養月日	備考
一	七〇	七〇〇	一〇	七月一日	水田ノ水深二寸
二	五五	四四〇	八	"	一、二號池ノ小區劃ノ水深一尺
三	四六	二三〇	五	"	

又稻苗ハ高溫ヲ必要トシ、虹鱒ハ生活適溫ヲ保ツ必要アルヲ以テ兩者ノ關係ヲ考慮シ、供試水田ヲ左圖ノ如ク仕切り換水ノ良否ニ依リ高溫溫部及ビ低水溫部ヲ得ルヤウニ改造セリ。



期間

自昭和十一年四月一日
至昭和十一年八月一日

經過並結果

養魚池ニテ飼育中ノ稚魚ヲ七月一日前記ノ如ク水田ニ放養セリ。放養後七月中旬迄ハ水溫比較的低ク發育狀況順調ナリシモ、中旬以降急激ナル水溫ノ上昇ト白點病ノ蔓延トニ依リ斃死魚續出シ殆ト全滅セルヲ以テ、八月一日本試驗ヲ中止スルニ至レリ。

放養時並ニ終了時ニ於ケル魚体及ビ成績左ノ如シ。

測定時期	全長(厘米)	体重(瓦)	放養取揚尾數(尾)	歩留(%)	摘	要
放	三・一	〇・二三	一、三七〇	〇・一四	一號及三號池ハ全滅	
終	三・五	〇・七五	二			

然シテ稻ノ成育狀況ヲ觀ルニ前圖ノ如ク注水部ニ近キ比較的低溫ノ個所ハ結實著シク惡ク、從ツテ一般ノ水田ト比較スレバ一反步約二斗ノ減收ヲ示セリ。以上ニ依リ本試驗ノ結果

- 一、虹鱒ハ比較的高溫ニ耐ヘ得ルト雖モ稻ノ成育ニ必要ナル高溫ニ於テハ著シク生活ニ恐脅ヲ與フ。
- 二、稻ハ水溫ノ上昇ヲ緊要トスルヲ以テ絶ヘズ通水シ得ズ。從ツテ水溫高キタメ虹鱒ニハ白點病ヲ誘發シ易シ。
- 三、稻病發生セル場合ハ之ガ防止ノ藥品ヲ制限セザルベカラズ。
- 四、養鱒ニハ低水溫ヲ必要トスルヲ以テ稻收量ニ惡影響アリ。
- 五、給餌セザルモ成長極メテ速ニシテ湧水ヲ用フル給餌飼育ニ比シ遙ニ優レリ。
- 六、歩留ハ白點病蔓延ノ結果極メテ不良ナリ。
- 七、魚ノ逃逸防止設備及ビ害敵驅除等ニ相當注意ヲ要ス。
- 八、魚ノ取揚ニ困難ヲ生ズ。

九、水温ハ晝夜並ニ天候ニ依リテ急激ナル變化ヲ生ジ虹鱒飼育上不利ナリ。
 十、虹鱒稻田養殖事業ハソノ年ノ米作ノ豊凶換言スレバ氣温ノ高低ニ依リ事業ノ成否ヲ決定セラルルニ依リ冷害年即チ稻作不良ノ場合ヲ除ケバ其ノ成効困難ナリト認メラル。

(八) 稻田養鰻試驗 (北見支場)

目的

冷害凶作ノ多年ニ亘ル北見地方ノ稻田ヲ利用シテ養鰻ヲ普及セシムルタメ指導上ノ資料ヲ得ントス。

方法

面積一一〇坪ノ水田ニ坪當一・九尾ノ割合ニ一一〇尾ヲ放養シ給餌セズニ施行セリ。

期間

自昭和十一年七月三十日

至昭和十一年九月十日

結果

放 養 時		取 揚 時		増		飼 育 日 數	歩 留	摘	要
体 長	体 重	体 長	体 重	体 長	体 重				
六・二 ^釐	二・七 ^瓦	八・九 ^釐	九・五 ^瓦	二・八 ^釐	六・二 ^瓦	四三 ^日	七〇 [%]		

稍良好ナル結果ヲ得タルモ、尙今後ノ研究ニ俟ツベキ點多々アリ。

(九) 胡瓜魚池中養殖試驗 (國後支場)

目的

養魚池ノ生産の利用ニ併セ飼育上ノ可否ヲ識ラントス。

方法

屋外ニ設置セル湧水、河水ヲ引用セル二本ノ孵化槽ニ五月七日東沸川ニテ採卵セル胡瓜魚卵ヲ各四十萬粒宛孵化盆附着ノ儘收容シ、孵出稚魚ハ暫時孵化槽ニテ飼育シ健全期ニ到達スルヲ待チテ養魚池ニ移シ飼育セントセリ。

期間

自昭和十一年五月

至昭和十一年六月

經過

六月十日孵出後主トシテ天然餌料ニ依ルモノ(河水利用)、主トシテ人工餌料ニ依ルモノ(湧水利用)ヲ飼育セルモノ斃死スルモノ續出シ全滅スルニ至レリ。人工餌料ハ鮎粉及卵黃ニシテ晒木綿ニ包ミ、コノ目ヲ通シテ水中ニ浮漂スル程度ナリ。

(十) 胡瓜魚死魚受精能力試驗 (國後支場)

目的

胡瓜魚ハ成熟期間短少ニシテ一晝夜乃至二晝夜ニテ放卵ヲ了シ採卵上支障尠カラズ。依ツテ成熟魚ヲ人爲的ニ斃死セシメ、其ノ經過時間ト受精率ノ關係ヲ闡明シ以テ人工孵化事業ノ參考ニ資セントス。

方法

一、成熟セル雌親魚七尾ヲ同時ニ卵巢ニ血液ノ滲マザル様ニ撲殺シ、卵ハ其ノ儘母体内ニ保持シ、一定時間毎ニ雌

一尾ニ生活セル雄三尾ノ精液ヲ配セリ。
 二、成熟セル雄親魚二十一尾ヲ同時ニ撲殺シ、精ハ其ノ儘精囊中ニ保持シ、一定時間毎ニ雄三尾ノ精ヲ生活セル雌一尾ノ成熟卵ニ配セリ。
 三、受精ハ乾導法ニ依ル。撲殺魚ハ絶体水ニ觸レシメズ。

期間

自昭和十一年五月二十七日

至昭和十一年六月二十日

結果

第一表 斃死經過ニ伴フ雌親魚受精率

母体内保有時間	供試卵數(粒)	受精卵數(粒)	不受精卵數(粒)	受精率(%)	備考
0.5	45,000	42,750	2,250	95.0	生殖素保有中ノ氣溫變化ハ攝氏四度ヨリ八度八分ナリ
1.0	42,000	39,820	2,180	94.8	
1.5	40,000	37,600	2,400	94.0	
2.0	30,000	28,200	1,800	94.0	
2.5	42,000	39,000	3,000	93.0	
3.0	40,000	37,110	2,890	92.8	
3.5	40,000	35,900	4,100	92.3	
4.0	36,000	33,400	2,600	92.8	
4.5	30,000	28,000	2,000	93.3	
5.0	15,000	13,500	1,500	90.0	

第二表 斃死經過ニ伴フ雄親魚精率

精囊内保有時間	供試卵數(粒)	受精卵數(粒)	不受精卵數(粒)	受精率(%)	備考
0.5	44,000	41,730	2,270	94.8	生殖素保有中ノ氣溫變化ハ攝氏四度ヨリ八度八分ナリ
1.0	47,000	39,600	7,400	94.5	
1.5	40,000	37,800	2,200	94.5	
2.0	30,000	27,000	3,000	90.0	
2.5	40,000	33,000	7,000	82.5	
3.0	38,000	32,830	5,170	86.4	
3.5	40,000	34,000	6,000	85.0	
4.0	40,000	34,000	6,000	85.0	
4.5	40,000	34,000	6,000	85.0	
5.0	40,000	34,000	6,000	85.0	

一、雌雄親魚共死後ノ經過ニ比例シ受精率ヲ減少ス。
 二、雌親魚ハ急激ナル氣溫ノ變化ナキ限り、二十四時間以内ニテハ受精率ニ顯著ナル差異ヲ認め難ク、充分ニ受精力ヲ持維ス。
 三、雄親魚ハ死後八時間ニテ全ク受精能力ヲ消失ス。

目的 (二) 紅鱒捕獲採卵試験 (年蒔、當路事業場)

前年度ノ繼續試験ナリ。

方法

鮭鱒親魚捕獲受託者ト協力シ、極力多數捕獲シ可及的未熟親魚ヲ蓄養シ催熟セシメテ採卵セリ。

期間

自昭和十一年九月六日

至昭和十二年五月三十日

經過並結果

第一表 親魚捕獲採卵成績表

場名	捕獲場所	捕獲數 (尾)		使用數 (尾)		採卵數	雌親魚使用率	平均採卵數	期間 至自 月日
		雌	雄	雌	雄				
當年	當年	計		計					
路	路								
崩	崩								
沼	沼								
川	川								
豐	豐	四三	七五	四三	三五	一〇〇,〇〇〇	七七・七%	二八・五粒	一〇、一
豐	豐	八三	一〇〇	三八	二三	一〇〇,〇〇〇	七七・七%	二八・五粒	一〇、一
元	元	六三	八三	四六	三三	一〇〇,〇〇〇	七七・七%	二八・五粒	一〇、一
計	計	一〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	六五七	五八	一〇〇,〇〇〇	七七・七%	二八・五粒	一〇、一

第二表 孵化放流成績表

場名	收容卵數	死卵數	孵出尾數	孵化率	放流數	孵化月日	放流月日	摘	要
當年	100,000粒	三,一七〇粒	九六,八三〇	九六・八%	九六,八三〇	一、二	四、三〇		
路	100,000粒	三,一七〇粒	九六,八三〇	九六・八%	九六,八三〇	一、二	四、三〇		
崩	100,000粒	三,一七〇粒	九六,八三〇	九六・八%	九六,八三〇	一、二	四、三〇		
沼	100,000粒	三,一七〇粒	九六,八三〇	九六・八%	九六,八三〇	一、二	四、三〇		
川	100,000粒	三,一七〇粒	九六,八三〇	九六・八%	九六,八三〇	一、二	四、三〇		
豐	100,000粒	三,一七〇粒	九六,八三〇	九六・八%	九六,八三〇	一、二	四、三〇		
豐	100,000粒	三,一七〇粒	九六,八三〇	九六・八%	九六,八三〇	一、二	四、三〇		
元	100,000粒	三,一七〇粒	九六,八三〇	九六・八%	九六,八三〇	一、二	四、三〇		
計	100,000粒	三,一七〇粒	九六,八三〇	九六・八%	九六,八三〇	一、二	四、三〇		

右ニ依リ紅鱒親魚捕獲採卵ハ充分事業トシテ施行スルノ可能ナルヲ知り得タルヲ以テ、昭和十二年度ヨリ鮭鱒同様事業ノ一部トシテ施行スル豫定ナリ。

(三) 石狩河口ノ鱒調査 (本場)

目的

前年度調査ノ結果石狩川ニハ時期ヲ異ニシテ形態ノ異ル二種ノ鱒、即チ体高ノ大ナル太鼓鱒ト小ナル柳葉鱒ガ溯上スルヲ知り、果シテ之ガ同一種ナリヤ又ハ系統ヲ異ニスル二群團ナリヤ、將又單ニ時期ノ推移ニ伴フ形態上ノ變化ニ過ギザルヤハ鱒人工孵化事業遂行上緊要ナル問題ナルヲ以テ、之等兩者ノ關係及千歳川産鱒トノ關係ヲ闡明セントシ本調査ヲ施行セリ。

方法

現地調査

時期

昭和十一年五月二十八日

結果

本調査ニ於テハ典型的ナル太鼓鱒ヲ蒐集シ得タルモ柳葉鱒ハ調査シ得ザルタメ、兩者ノ關係ハ未ダ不明ニシテ今後ノ研究ニ俟ントス。

(三) 厚田川ニ於ケル稚鮎ノ溯上狀況調査 (本場)

目的

鮎池中養殖試験用種苗産地トシテノ適否及同川ノ稚鮎溯上狀況一般ヲ知ルタメ調査セリ。

期間

昭和十一年五月二十九日及昭和十一年七月十六、七日

結果

第一回(五月二十九日)ハ増水ノタメ調査不可能ナリシニ依リ、從來地方人ノ湖上期ト稱セラルル七月中旬第二回ノ調査ヲ施行セル結果、七月ハ全ク稚鮎ノ湖上ヲ認メズ五月頃湖上スルモノト思考ス。若シ五月頃トスレバ、當時期ハ厚田川ノ増水期ニ當リ、實際上稚鮎ノ捕獲ハ困難ニシテ、稚鮎ノ供給地トシテハ不適當ナリト思考セラル。

(四) 網走湖ノ漁業調査(本場)

目的

網走湖ノ近年ニ於ケル漁業ノ状況及漁獲物ノ種類等ヲ明カニシ、同湖蕃殖保護實施上ノ資料ヲラシメントス。

方法

現地調査

期間

自昭和十二年三月十七日

至昭和十二年三月二十日

結果

網走湖ニ於ケル漁獲物中重ナルモノハ公魚、白魚、鯉、鮒、鮭及樺太鱒等ニシテ、其ノ他ウグイ、タカノハガレヒ、モクヅガニ、スデエビ、カラスガヒ、タニシ、イトウヲ、ウキゴリ、アシシロハゼ、ビリンゴ、チ、ブ、イトウ、アメマス、コマイ、キウリウヲ、メナダ等ノ棲息ヲ見ル。而シテ漁業ノ主ナルモノハ殆ド地曳網漁業等ニシテ、之ニ依ル生産額ハ鮭鱒ヲ除キ昭和十一年度ニ於テハ約三萬六千圓ナリ。

本湖ニ於ケル各種魚類ノ繁殖施設トシテ最モ顯著ナルハ鮭鱒及公魚ノ人工孵化放流ニシテ、昭和十一年度ノ成績左ノ如シ。

鮭

四、三〇〇、〇〇〇尾

(北海道鮭鱒孵化場北見支場網走事業場)

鱒

五七七、〇〇〇尾

〃

公魚

二二三、九三〇、〇〇〇尾

(網走能取二湖漁業協同組合)

(五) 塘路湖ニ於ケル漁業状況調査(本場)

目的

漁業ノ状況ヲ調査シ同湖ニ於ケル水族蕃殖保護實施上ノ資料ヲラシメントス。

方法

現地調査

期間

自昭和十二年三月八日

至昭和十二年三月十四日

結果

本湖ニ於ケル重要ナル魚族ハ公魚ノミニシテ、昭和六年度以降十一年度ニ至ル六ケ年間ノ漁獲高ノ九十%餘ヲ占メ、此ノ増殖ニ關シテハ人工孵化放流ヲ行ヒ、昭和十一年度ニハ八千四百萬尾放流セリ。尙鰻ハ殆ド連年ノ如ク種苗ヲ放流セルモ、未ダ成績擧ラザル状況ニシテ、本湖ノ生産増加ヲ期スルタメ公魚ト共ニ更ニ一段ノ講究ヲ要ス。

(六) 塘路湖ニ於ケル魚族蕃殖ニ及ボス洗炭廢液ノ影響調査(本場)

目的

塘路湖ニ於ケル二大涵養河川ノ一トシテ、最も重要且公魚ノ唯一ノ好適産卵場タルアレキナイ川上流ノ大東炭鑛採炭場ノ廢水ハ、近時湖面迄伸張スルニ至レリ。從ツテ同湖ノ最重要魚族公魚ノ蕃殖ヲ阻害スルコト夥シキヲ以テ、之ニ對スル適當ナル方策ヲ講ズル必要アリト認メ之ガ調査ヲナセリ。

方法

現地調査

期間

自昭和十二年三月八日

至昭和十二年三月十四日

結果

アレキナイ川ニ放出スル洗炭廢水ハ、同川ノ魚族棲息ヲ不可能ナラシメ、且今後ノ増産ト共ニソノ被害モ漸次湖面ニ及ブモノト豫想セラル。而シテ目下鑛業者側ニ於テ計畫中ノ除害施設ニ就テハ微粉ガ影響スルモノナリヤ、或ハ濁水ナリヤ、或ハ別ニ有害毒物質ニ依ルモノナリヤノ點ニ關シテハ更ニ理化學的調査ニ依リテ原因ヲ闡明シ、對策ヲ講ズルノ要アリ。

(モ) クサレ沼調査 (國後支場)

目的

同湖ノ性狀ヲ調査シ利用上ノ參考資料ヲ求メントス。

方法

現地調査

期間

昭和十一年七月八日

結果

一、本湖ノ生産力ハ絶對生産量ヲ求ムルコト至難ナレドモ、一町歩三、四貫程度ノモノト推定セラル。深度比ハ四九・九七ナリ。

二、底質ハ大部分褐泥ニシテ多量ノ窒素分ヲ含有スベク、間接的ニ動物ノ種類増加ヲ窺知シ得。

三、既棲魚類ノ數量少ク從ツテ増殖の見地ヨリ棲息區域及ビ餌料ニハ懸念ナキモノト認ム。

(六) 河川調査 (擇捉支場)

目的

前年度ニ引續キ、鮭鱒溯上河川ニツキ溯上狀況、其ノ他孵化事業上必要ナル諸種ノ條件ヲ調査シ以テ孵化場設置ノ

參考資料ヲラシメントス。

場所

磯谷川、猿谷川

方法

現地調査

期間

自昭和十一年八月十九日

至昭和十一年八月二十一日

結果

近年兩川ニ溯上スル鮭鱒ノ數量ハ著シク減少シ昔日ノ盛況ヲ見ル能ハズ。即チ鮭ハ殆ド溯上セザルモ樺太鱒ハ稍々見ルベキモノアリ。磯谷川ニ於テハ全期ヲ通ジテ五十石内外、猿谷川ニ二百石ナリ。尙本調査ニヨリテ孵化事業遂行上ノ諸條件ヲ具備スルヲ確メ得タリ。

講習、講話及指導（實習ヲ含ム）

(一) 講習、講話

期 日	開 催 地	主 催 者	項 目	講 師	摘 要
七月十七日 自七月二十八日 至同月三十日	旭 川 市 沙流郡右左府村	北海道養鱒組合 村 役 場	養 鱒 事 業 養鯉其ノ他一般淡水 養殖並實地指導	本 場 長 本 場 員	聽講者同上組合員 今井仙助外七名

(二) 指導

期 日	場 所	被 指 導 者	項 目	指 導 者	摘 要
自四月十四日 至四月十七日	濤 沸 湖	網走漁業協同組合	公魚人工孵化事業	北見支場員	
自四月十九日 至四月二十二日	網 走 湖	〃	〃	〃	
自五月四日 至五月二十日	東 沸 湖	國後養殖水産組合	胡瓜魚人工孵化並移殖	國後支場員	
自七月三十一日 至八月五日	幕別村白人	白人農業青年學校	虹鱒養殖事業	虹別支場員	

其ノ他

(一) 事業打合會

本年度事業施行ニ當リ五月二十一、二日ノ兩日本場千歳ニ各支場長ヲ招集シ打合ヲナシタリ。

(二) 其ノ他ノ會合

イ、北見支場所屬親魚捕獲受託者打合會

ロ、國後擇捉支場所屬ノ各事業場主任打合會

(三) 本場移轉

從來千歳孵化場ヲ本場ニ充テ執務中ナリシガ、十二月二十一日ヨリ札幌市外中之島ニ移轉シ事務ヲ開始セリ。
右ニヨリ同時ニ千歳孵化場ハ千歳事業場ト改稱セラレタリ。

移管成績

既述ノ通り昭和十一年度鮭鱒孵化事業ハ豫定計畫ニ達セザル成績ナリシモ、之ヲ移管前後三箇年宛ノ成績ヲ比較スルトキハ著シキ進歩ヲ示シタリ。

鮭孵化事業ハ一孵化場當捕獲數ニ於テ二千五百六十九尾、採卵數ニ於テ二百四萬七千九百八十三粒、豫定計畫ニ對スル採卵率ニ於テ四二・五%、雌親魚使用率ニ於テ七・六%ノ孰レモ増加ヲ示シタリ。唯平均採卵數ニ於テ四十三粒、孵化率ニ於テ一・八%ノ低下ヲ見タルハ遺憾トスルトコロナレドモ、之ハ豫定計畫以上ノ採卵ヲナシタル結果ニ基因スルモノニシテ已ムヲ得ザル事情ナリ。

鱒孵化事業ハ親魚使用率ニ於テ八・〇%孵化率ニ於テ〇・七%ノ増加ヲ示セルモ其ノ他ハ稍々低下ヲ示シタリ。

魚種	項目	移管前 (昭和六・七・八年度)	移管後 (昭和九・十・十一年度)	摘 要
鮭	一孵化場當親魚捕獲數	七、五三三粒	一〇、三一二粒	捕獲雌數ニ對スル使用雌數ノ割合
	一孵化場當採卵數	五、六〇、四八六粒	七、五八、四七一粒	
	豫定計畫ニ對スル採卵率	六二・二%	一〇四・七%	
	雌親魚使用率	六四・五%	七二・一%	
	平均採卵數	二、三九七粒	二、三五四粒	
鱒	一孵化場當親魚捕獲數	九・四%	八九・六%	捕獲雌數ニ對スル使用雌數ノ割合
	一孵化場當採卵數			
	豫定計畫ニ對スル採卵率			
	雌親魚使用率			
	平均採卵數			

魚種	項目	移管前 (昭和六・七・八年度)	移管後 (昭和九・十・十一年度)	摘 要
鮭	一孵化場當親魚捕獲數	八、八二二粒	七、〇五六粒	捕獲雌數ニ對スル使用雌數ノ割合
	一孵化場當採卵數	二、七九六、一〇三粒	二、五五二、二二三粒	
	豫定計畫ニ對スル採卵率	六六・九%	五七・四%	
	雌親魚使用率	五〇・五%	五八・五%	
	平均採卵數	一、七三五粒	一、四七七粒	
鱒	一孵化場當親魚捕獲數	九・七%	九二・四%	捕獲雌數ニ對スル使用雌數ノ割合
	一孵化場當採卵數			
	豫定計畫ニ對スル採卵率			
	雌親魚使用率			
	平均採卵數			

北海道鮭鱒孵化場・支場・事業場一覽表
(昭和十二年三月三十一日現在)

[illegible]

昭和十三年三月二十三日印刷
昭和十三年三月二十八日發行

北海道鮭鱒孵化場

印刷人 札幌市南二條西六丁目三番地
山 藤 國 八

印刷所 札幌市南二條西六丁目三番地
山藤印刷株式會社
電話二六番